

5 教育委員会所管事務事業にかかる点検・評価

施策：2121 家庭教育の推進

〔平成29年度 目指すべき姿〕  家庭の教育力を向上させるため、保護者に対して、学習機会の提供や各種啓発パンフレット等を通して、家庭教育の充実を図る。子どもの健全な生活習慣の定着を図る。

施策評価	施策評価の理由	すこやかネット事業等を通じて、学校園・地域・家庭が協働し、基本的な生活習慣の定着等の啓発を実施し、家庭教育の推進を図ることができた。				
☆☆☆	成果と課題	小・中学校で実施している家庭教育学級の参加者アンケートでは肯定的評価が高く、家庭教育力の向上を図ることができた。保護者だけでなく、社会総がかりで子どもを育てる環境づくりが必要である。				
	平成30年度への対策・対応	保護者や地域住民を対象とした家庭教育に関する学習機会の提供や各種啓発パンフレットの配布等により、市民の家庭教育力の増進を図る。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	212102	草の根家庭教育推進事業	就学前・思春期家庭教育学級参加者の肯定的評価(%)	95.0	91.7	↑
☆☆☆	212107	早寝早起き朝ごはん事業	中学生の朝ごはん摂取率(%)	83.8	81.4	↑

施策：2125 子育て家庭への経済的負担の軽減

〔平成29年度 目指すべき姿〕  施策を構成する各事業を適正に実施し、継続的に子育て支援に取組み、子育ての環境の整備、経済的負担の軽減を図る。

施策評価	施策評価の理由	施策を構成する各事業は概ね目標どおり実施され、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。				
☆☆☆	成果と課題	各事業を適切に実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。国・県等の制度の変更に的確に対応し、子育て支援に継続的に取り組む必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	国・県等の動向や子育て家庭の状況を把握し、各事業の適正な執行に努め、子育て家庭への経済的負担の軽減を図り、効果的な子育て支援に継続して取り組む。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	212502	私立幼稚園就園奨励費補助事業	補助金交付者数	989	1,108	評価対象外
☆☆☆☆	212507	就学援助事業	就学援助認定者数	2,812	2,628	
☆☆☆	212515	大学等入学支度金支給事業	支度金支給者数	30	30	

施策：2211 自ら学び自ら考える力を育む教育の推進

〔平成29年度 目指すべき姿〕  学力・学習状況調査等から明らかになった課題について、教育委員会、学校、家庭が連携し、学力向上の取組みを推進する。個の課題に応じたきめ細やかな指導を行い、学力低位層の底上げを図る。学力向上プランに基づいた各学校の取組について、進行管理を着実にを行う。

施策評価	施策評価の理由	全国学力・学習状況調査を活用した本市の学力の実態把握・分析、各校の学力向上プランに基づいた取組の進捗を管理することができた。また、きめ細やかな指導の充実のための学力向上支援教員を配置することができた。				
☆☆☆	成果と課題	全国学力・学習状況調査において、全国平均並みとなるなど、学力を着実に向上させることができた。知識・技能を活用する「思考力・判断力・表現力」の育成に取り組む必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善を軸にした活学力の育成と、放課後学習推進事業や子どもサポーター派遣事業等の実施を通じた学力低位層への個別指導をさらに充実させる。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221114	学力向上支援教員配置事業	配置校の全国学力・学習状況調査の平均正答率対全国平均正答率(%)	-5	-5	↑
☆☆☆☆	221113	土曜学習事業	延べ参加者数	11,050	14,638	↑

施策：2212 新たな社会への対応力を育む教育の推進

平成29年度
目指すべき姿

重点化

学校園の情報教育に係る環境を整備する。グローバル化を見据えた英語教育の充実を図る。

施策評価	施策評価の理由	ICTを活用した授業時数について、実績値が計画値を大幅に上回るなど、ICTを活用した授業を促進することができた。 「伊丹市中学校英語暗唱・スピーチ大会」出場人数が計画値を上回り、順調に推進できた。				
	成果と課題	情報機器の整備・更新及び、担当者会や情報教育研修会、学校園別コンピューター研修会等を通してICTを活用した授業の促進を図ることができた。今後においても、引き続き効果的なICT活用を促していく必要がある。 英語教育においては、中学校3年生において、英検3級程度の英語力を有する者が46.0%にのぼるなど、成果が見られた。小学校外国語教科化に向けた体制整備を引き続き進める必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	教科指導における効果的なICT活用を支援する。2020年度の小学校におけるプログラミング教育必修化に向け、モデル校での調査研究を進めるとともに、その成果を他校へ発信していく。英語教育の充実については、外国人英語指導助手を増員し、小学校において児童がネイティブスピーカーと学ぶ機会を増やす。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	221206	情報教育推進事業	ICTを活用した1クラスあたり月平均授業時間	20.5	26.4	↑
☆☆☆☆	221213	グローバル化に向けた英語教育推進事業	中学3年生英語力（英検3級程度）（%）	50.0	46.0	↑

施策：2213 伊丹ならではの特色ある教育の推進

平成29年度
目指すべき姿

取組維持

「『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市」として、伊丹ならではの教育の推進・充実を図る。

施策評価	施策評価の理由	学校図書館とことば蔵との連携による児童生徒の読書教育を推進することができた。				
	成果と課題	ことば文化都市としての伊丹ならではの教育を社会総がかりで推進するため、わかりやすい資料をタイムリーに市民に周知し、認知度を高める必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	ことば文化都市としての伊丹ならではの教育をメディアを通して広く市民に周知する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	221303	学校図書館活性化事業	小・中学校の児童生徒一人あたりが1ヶ月に読書した冊数（冊）	8	10.9	↑



施策：2214 魅力ある市立高等学校づくり

平成29年度
目指すべき姿



「今後の市立高等学校のあり方について－基本方針－」に基づき、平成27年度公立高等学校入学者選抜より導入された新通学区域に対応し、より一層の特色化・活性化を推進する。

施策評価	施策評価の理由	思考力・チャレンジ精神・柔軟性など、グローバル社会に対応できる資質を備え、語学力・コミュニケーション能力等の表現力に長じたグローバル人材の育成に学校全体で力を入れることができた。また進学先の選択にあたって目標を高く持ち、早期から将来に対する意識を高めることができた。補習授業や放課後特別学習を実施することができた。				
☆☆☆	成果と課題	英語能力検定試験準2級程度以上の英語力を有する者の割合が昨年度より11.9ポイント上昇したり、希望する進学先や国公立大学への合格者を増やしたりするなど、生徒の意欲を高めることができた。今後は21世紀型学力を達成するために、新学習指導要領に沿った授業改善及びカリキュラムマネジメントの実現を図る必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	「グローバル人材育成プロジェクト」を実施する。特に、論文作成や「課題研究」等、探究的な学習に加え、イングリッシュキャンプ、イングリッシュサマーセミナーを開催し、生徒の幅広い進路志望に対応する、市立高校ならではの取組を進める。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221401	市立伊丹高校活性化事業	国公立大学合格者数	20	17	↑
☆☆☆	221402	市立伊丹高校特色化事業	英検準2級程度学力保持者の割合(%)	50	53.8	↑

施策：2215 特別支援教育の推進

平成29年度
目指すべき姿



インクルーシブ教育システム構築に向けて、改訂版「今後の特別支援教育のあり方について」（基本方針）に基づき、各学校園において特別支援教育を推進する。本人、保護者との合意に基づく、個に応じた支援をするとともに通常学級においても個別的教育支援計画を作成し活用を推進する。「教育のユニバーサルデザイン化」等の教職員研修を実施し、教員の専門性の向上を図る。

施策評価	施策評価の理由	「合理的配慮」の具体例や、児童生徒の状態に応じた学びやすい教育環境について、教職員の資質向上を図ることができた。				
☆☆☆	成果と課題	教職員を対象に特別支援教育に関する研修会を実施し、教職員の専門性の向上を図ることができた。引き続き、個別的教育支援計画の作成を要する幼児児童生徒の増加に合わせ、支援計画の作成・活用をさらに推進し、本人・保護者との合意に基づく個に応じた支援を推進する必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	一人ひとりの障害の状態や教育的ニーズ等に応じた教育支援計画作成を推進する。福祉関係機関との連携を一層推進する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221501	伊丹市特別支援教育審議会事業	個別的教育支援計画作成人数の割合(%)	88	86	↑
☆☆☆☆	221514	伊丹特別支援学校活性化事業	自立活動研修会および理学療法士等を活用した回数	48	54	=

施策：2221 豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

児童生徒がよりよく生きるための豊かな情操や規範意識、生命の尊重、自尊感情、思いやり等の道徳性の育成を目指し、道徳の時間やキャリア教育、体験活動、芸術文化活動等の一層の充実を図る。

施策評価	施策評価の理由	個々の事業において概ね目標を達成できており、道徳教育に対する教員の意識に変化が見られる。また、児童生徒の行事等での様子から、自尊感情や思いやりの気持ちが育まれている。				
☆☆☆	成果と課題	行事や授業等を通して、自尊感情を高める活動ができたが、児童生徒のより豊かな心の育成に向けた、「考え議論する道徳」の研究を一層深める必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	キャリア教育の研究の充実や、児童会・生徒会等の活性化、地域と連携した活動を充実させるとともに、「考え議論する道徳」の授業を推進する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222107	「トライやる・ウィーク」事業	参加生徒数（人）	1,730	1,723	=
☆☆☆	222113	道徳教育推進事業	研修会の開催回数（回）	6	7	↑



施策：2222 子どもの問題行動への対応

平成29年度
目指すべき姿

重
点
化

スクールソーシャルワーカー等の専門性を有する人員の効果的な活用を通して、学校、家庭、関係機関の連携した取組を進め、いじめを含む問題行動や不登校児童生徒数の減少に向け、未然防止・早期対応を図る。

施策評価	施策評価の理由	スクールソーシャルワーカーを活用して関係機関等と円滑に連携したことにより、中学校の不登校生徒数と問題行動件数が減少し、小学校の不登校児童数を減少させることができた。				
☆☆☆	成果と課題	スクールソーシャルワーカーの人数増及び潜在していた事案への対応が進み、各校園への派遣回数を大きく伸ばすことができた。それにより、不登校児童生徒の背景にある環境改善を図り、中学校の不登校生徒数と問題行動件数減につながった。一方、小学校の問題行動件数が増加していることに対し、要因を分析し、具体的な取組を行っていく必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	「チームとしての学校」の実現に向けて、スクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関と連携を密にすることで問題行動や不登校児童生徒を減少させる。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222201	スクールサポート事業	スクールソーシャルワーカーの学校・家庭・関係機関等への訪問回数	660	4,443	↑

施策：2223 子どもの健やかな体づくりと部活動の推進

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

伊丹市体力・健康づくり推進プランに基づき、児童生徒の体力向上に向けた具体的な取組を推進する。外部指導者の適切な配置や、県大会、近畿大会助成制度などの活用により、中学校の運動部活動の振興・充実を図る。薬物乱用防止教育等をはじめとする健康教育の充実を図る。

施策評価	施策評価の理由	体力向上推進員派遣事業の活用等により、小学校の体力をほぼ全国平均並みに向上させることができた。 また、部活動の各種大会においては、上位大会に出場するなど活躍できた。				
☆☆☆☆	成果と課題	全国体力調査の結果から、小・中学校ともに体力合計点は全国平均並みであったが、特に小学校では持久力に、中学校では柔軟性に課題があることから、今後は課題の改善に向け、継続的・計画的に取り組む必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	小学校においては、持久力を高める取組を充実させるなど授業改善を図るとともに、休み時間を活用した運動の日常化等の取組を推進する。また、中学校においては、柔軟性を高める取組を計画的・継続的に実施することで、児童生徒の体力の向上を図る。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222303	中学校運動部活動外部指導者派遣事業	外部指導者配置数（人）	20	20	=
☆☆☆☆	222304	県大会、近畿大会助成制度事務	出場者数	350	435	↑
☆☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の小学校の指数	99.0	100.0	↑
☆☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の中学校の指数	101.5	99.7	↑

施策：2224 健全な食生活の推進

平成29年度
目指すべき姿

重
点
化

「伊丹市食育推進実践計画」に基づき、児童生徒の食に関する正しい知識と判断力を育む。「食に関する指導」「給食に関する指導」「おやこ料理教室」等の実施により、健全な食生活の普及啓発を図り、児童の健康づくりを推進する。伊丹産・兵庫県産の食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進に努めるとともに、残食軽減を目指す取組を進める。

施策評価	施策評価の理由	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等を計画的に実施することができた。 また、中学校給食センターの外構工事を完了し、リハーサルとしてのプレ給食を行い、平成29年6月から市内全中学校で完全給食を実施することができた。 さらに、洗浄室空調設備整備の実施、連続式揚物機・連続式焼物機、給食配送車両の更新を行うとともに、新たに、安全性の確保を最優先にしたアレルギー対応食（「卵」除去食）の提供を小・中ともに開始することができた。				
☆☆☆☆	成果と課題	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等の様々な取組をとおり、食育の推進を図ることができた。また、中学校給食・アレルギー対応食の提供、県産品を利用した「おやこ料理教室」の開催等を計画的に実施することができた。今後はさらに、安全・安心な給食の提供と残食軽減の取組を進めていく必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「献立コンクール」等、関係部局と連携を図り、食育の充実を図る。 また、関係機関と連携を図り、地産地消の取組を推進する。 アレルギー対応食（「卵」除去食）の提供については、安全性の確保を最優先に実施する。 さらに、定期的に調査を行うとともに、給食アンケート結果をもとに、各小中学校と連携を図り、残食軽減の取組を推進する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	「給食に関する指導」「食に関する指導」の指導年間実施回数	244	242	=
☆☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	地産地消の推進	24.0	25.7	↑

施策：2231 学校園情報の積極的な発信と学校園運営への市民参画

平成29年度
目指すべき姿

重点
化

ホームページ等の様々な媒体を活用し、学校園の取組や教育情報を効果的かつタイムリーに発信する。地域等のニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるため、「学校運営協議会」を設置し、市民参画による「コミュニティ・スクール」を実現する。

施策評価		ホームページを頻繁に更新し、教育情報や教育委員会の取組をタイムリーに発信することにより、市民の学校活動に対する関心を高めることができた。この取組により、土曜学習事業の運営スタッフとして、ボランティア人材バンクへの登録が大きく増加した。 新たに小学校4校、中学校2校、高校1校に学校運営協議会を設置することができた。
☆☆☆	施策評価の理由	
	成果と課題	子どもたちの学力や体力の現状などを積極的に発信することができた。学校運営協議会設置の必要性を周知することができた。学校運営協議会設置後はコミュニティ・スクールの円滑な運営を支援していく必要がある。
	平成30年度への対策・対応	学校支援ボランティアの養成を積極的に行い、ボランティア人材バンクの登録者の増加を図る。 学校・家庭・地域の連携を深め、さらなる教育活動への参画を図る。

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223104	伊丹市学校支援地域本部事業	伊丹市学校支援ボランティア人材バンク登録者数	580	710	↑
☆☆☆☆	223107	コミュニティ・スクール設置事業	コミュニティ・スクールの学校数	6	7	↑

施策：2232 安全・安心な学校園づくり

平成29年度
目指すべき姿

重点
化

警察と連携した防犯訓練、防災訓練を実施することにより、児童生徒の危機管理能力を育成するとともに、校内の組織的な危機管理体制を強化する。全小学校3年生を対象にCAP講習会を実施し、事故、犯罪、災害等に対する対処法や回避方法を学ぶことにより、危機対応能力を育てる。教職員対象の心肺蘇生法講習会を実施することにより、AEDを活用した救急手当での指導力向上を図る。また、中学校3年生対象の心肺蘇生法講習会を実施することにより、生命を尊重する心を育てるとともに、習得した知識、技能を自ら生活に生かす実践力を育てる。小学生対象の心肺蘇生法講習会の実施を検討する。

施策評価		園児・児童生徒の危機対応能力の育成を図り、各学校園において、計画通り、防災訓練や教職員対象の心肺蘇生法講習会を実施するとともに、大規模改造工事など施設の安全性向上に資する整備を実施することができた。				
☆☆☆☆	成果と課題	心肺蘇生法講習会など様々な取組を通して、児童生徒及び教職員の危機対応能力の向上を図ることができた。また、学校園においては、大規模改造工事等を行い、学習環境や施設環境をより安全に整備することができた。安全安心な学校園づくりのための取組を効果的なものとするため、実施時期や内容等について、毎年見直す必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	園児・児童生徒が、安全安心な学校生活を送ることができるよう、計画的な防災訓練や教職員対象の心肺蘇生法講習会等の実施、施設整備を行う。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223212	教職員対象心肺蘇生法講習会	心肺蘇生法講習会受講者数	550	573	↑
☆☆☆☆	223206	学校園防犯訓練・防災教育	警察と連携した防犯訓練の実施小学校数	17	17	=
☆☆☆☆	223207	学校施設の大規模改造等事業	工事実施校数	15	15	=

施策：2233 教職員の意識改革と資質の向上

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

授業力向上に関する研修、トップリーダー研修、ミドルリーダー研修、若手教員の育成やいじめの未然防止につながる研修など、本市の課題に即した研修を実施する。教員のニーズをふまえ、適切なテーマの設定、講師の選定、研修形態の工夫等により研修内容を充実する。校内研究や自己研修、グループ研究の活性化に向けて、指導主事・授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントによる支援を行う。

施策評価	施策評価の理由	教員のニーズに応じた研修を計画的に実施し、資質の向上を図ることができた。				
☆☆☆☆	成果と課題	若手教員・ミドルリーダー・トップリーダーの経年研修等を充実し、教職員の資質向上及び意識改革を図ることができた。教員の授業力向上に向け、今後も継続して研修等を実施し、更なる教職員の資質向上に努める必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	ミドルリーダー養成研修のカリキュラムを改善し、主体的に学校園経営に参画する中堅教員を育成する。また、若手教員が増加する中、指導主事や授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントによる支援を充実させる。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223301	学校力アップ事業	研究発表校数（校）	10	10	=
☆☆☆☆	223304	初任者・経年研修事務	市教育委員会主催の研修会1人あたりの参加回数	8	8	=
☆☆☆☆	223306	教職員のための各種講座及び研修・研究活動	研修受講者満足度割合(%)	97	97.1	↑
☆☆☆☆	223307	授業力向上（カリキュラム）支援センター事業	自主研修利用者数	1,500	1,854	↑

施策：2311 市民の主体的な学習や活動の支援

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

生涯学習ボランティアの育成、支援を継続する。市民の参画と協働を推進するためのコーディネート機能の充実を図る。学習成果を地域に還元する仕組みの充実を図る。参加者が交流、情報共有できる学びの場の充実を図る。学習成果活用を拡充する。

施策評価	施策評価の理由	公民館登録グループ地域派遣事業において、派遣件数、派遣グループ数ともに昨年を大きく上回ることができた。				
☆☆☆	成果と課題	公民館グループの学習成果活用取組について充実が図れたが、今後、市民自らが学びによる地域の絆づくりを進めていけるよう、地域人材の育成が必要である。				
	平成30年度への対策・対応	新規事業「学びによる地域活性化支援事業『まちなか公民館』」として、「いたみに学びを拡散！学びの仕掛人養成講座」、「公民館と市民グループがコラボする『まちなか市民講座』」、「市民グループの地域派遣事業」を実施する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231104	公民館グループ活動支援事業	利用者数	74,900	74,088	↑
☆☆☆	231105	講座等生涯学習活動支援事業	事業参加者数	15,300	14,976	↑

施策：2312 社会教育施設等の効果的活用

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

ホームページ等によるイベントの情報発信の充実を図る。社会教育施設の特徴やノウハウを活用した事業を提供する。他施設、大学、企業、地域等との連携による、参画と協働型事業を推進する。多様化する市民ニーズに合わせた事業を展開する。

施策評価	施策評価の理由		ホームページや広報を通じて積極的に社会教育施設における事業を周知し、情報発信することができた。			
☆☆☆	成果と課題		他施設との連携だけでなく、市民との協働や学校・企業との連携も含め、幅広い事業を実施することができた。また、事業実施にあたり、メディアを活用し市内外へ広くPRできた。			
	平成30年度への対策・対応		多様化する市民ニーズに沿った事業を企画、実施し、効果的な情報発信に努める。			
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	231202	生涯学習センター管理運営委託事業	利用者数	198,500	205,392	↑
☆☆☆	231203	北部学習センター管理運営委託事業	利用者数	144,000	140,955	↑
☆☆☆	231204	博物館管理運営事業	利用者数	45,000	42,480	↑

施策：2313 伊丹の特色を活かした学びの創出

平成29年度
目指すべき姿

取組
維持

市民と共に、図書館本館「ことば蔵」のさまざまな事業等を実施する。市民の生涯学習を支援するため、図書館資料の整備充実を図る。歴史・文化財をテーマとした講座等を通じて、郷土の魅力を発信する。

施策評価		図書館事業については、魅力ある事業を継続してマスメディアの注目を集め、新聞等の記事掲載を軸に市内外へ「ことば蔵」及び伊丹市のPRに貢献することができた。蔵書冊数も順調に充実することができた。				
☆☆☆	施策評価の理由	博物館事業については、昨年度に引き続き、焼付写真しかなかった昭和31年（1956）撮影の市域航空写真の複製（ポジフィルム作成並びにデジタルデータ化を行い、郷土の魅力発信に向けた博物館蔵資料の有効活用に資することができた。				
	成果と課題	図書館事業については、交流フロア運営会議を中心にした交流イベントを年間225回実施し、新聞等に年間52回掲載された。あわせて記念講演などで地域歴史文化の発信もできた。若い世代がより多く交流フロア運営会議に参加できるよう図る必要がある。 博物館事業については、複製資料の展示等利用機会を増やし、さらなる活用を図る必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	子ども版運営会議の「こども作戦会議」を展開し、若い世代の図書館事業への協働を図る。引き続き「ことば蔵」及び伊丹市のPRを実施する。魅力的な蔵書構成となるような図書の選定・配架を継続し、貸出冊数及び蔵書冊数の増加を目指す。 博物館事業について、上記複製製作を継続するとともに、複製資料のさらなる活用を図る。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231305	図書館本館活動事業（図書の充実・交流事業を除く）	本館貸出冊数（冊）	689,000	663,724	↑
☆☆☆☆	231306	ことば蔵交流事業	イベントの実施回数（回）	200	225	↑
☆☆☆☆	231308 231309	図書館図書充実	蔵書冊数（冊）	609,200	613,537	↑
☆☆☆	231312	博物館の整備・充実	複製点数(点)	1	1	=

施策：2321 生涯スポーツの環境づくり

平成29年度
目指すべき姿

重
点
化

子どもから大人までの各世代が、スポーツに取り組むことができる環境の充実を図る。「健康づくり大作戦」と連携し、スポーツに親しむことの少ない世代へのスポーツに取り組む機会を提供する。市内企業と連携し、優秀選手の発掘を行う。平成30年度からのスポーツ推進計画を策定する。

施策評価	施策評価の理由	すべての市民、スポーツ団体、学校、民間事業者、行政等が参画し、ささえ、連携・協働し、“スポーツ・フォー・オール”のまち、伊丹を創ることを目指し、平成30年3月に「伊丹市スポーツ推進計画」を策定することができた。				
☆☆☆	成果と課題	各種大会等について、スポーツ推進員との連携等により計画どおり実施できた。各種大会やイベント等への参加者の増加を図るため、SNSやホームページ等を活用し、情報発信を積極的に行う必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	「伊丹市スポーツ推進計画」に基づき、市民のスポーツへの関心を高め、あらゆる世代の市民が気軽にスポーツに親しむことができるように各種大会等を実施し、参加者の増加を図る。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	232101	スポーツの活動支援	スポーツクラブ21会員数（人）	6,000	5,829	↑
☆☆☆	232102	生涯スポーツに向けた環境整備	市民スポーツ祭等参加人数（人）	18,000	14,650	↑
☆☆☆	232103	新生涯スポーツ振興基本計画ハード事業	体育施設の利用者数	850,000	763,313	↑

施策：2322 伊丹の特色・資源・人材を活かしたスポーツ振興

平成29年度
目指すべき姿

取
組
維
持

第13回全国高等学校なぎなた選抜大会等の実施により、「伊丹ブランド」として、なぎなた競技の振興を図る。マスコットキャラクター等により、大会の効果的な周知を行い、ふるさと寄附の協力を呼びかける。

施策評価	施策評価の理由	第13回全国高等学校なぎなた選抜大会を実施することにより、「伊丹ブランド」としてなぎなた競技を振興・周知することができた。また、「いたっボール」を出前講座やスポーツクラブ21と連携を図り推進することができた。				
☆☆☆☆	成果と課題	第13回全国高等学校なぎなた選抜大会を実施し、「伊丹ブランド」として振興・周知した。また、第20回までの同大会開催計画を決定することができた。「いたっボール」については、講習会の参加人数が計画値を上回ることができた。今後はさらに、伊丹ならではのスポーツとして、認知度を上げていく必要がある。				
	平成30年度への対策・対応	今後も、なぎなたのまちとして全国高等学校なぎなた選抜大会を効果的に運営し、なぎなたの振興を図る。また、出前講座やスポーツクラブ21と連携を図り、「いたっボール」の参加者を増やす。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	232201	全国高等学校なぎなた選抜大会	大会参加人数	2,000	2,292	↑



施策：3131 文化財の保存と情報発信

平成29年度
目指すべき姿

重点化

発掘資料や博物館資料など、伊丹の歴史文化の情報発信を充実。地域と連携した調査・研究事業を推進し、研究紀要「地域研究いたみ」等で発表。埋蔵文化財センターにて、埋蔵文化財の保存、管理、活用を行う。

施策評価		文化財関係事業においては、新しく埋蔵文化財センターで市内遺跡の文化財の展示をスタートする等、伊丹の歴史・文化に触れ合う機会の創出に取り組むことができた。				
☆☆☆	施策評価の理由	博物館事業においては、本年度から3カ年計画で刊行する博物館史料集13『有岡城跡』（仮題）の初年度事業及び旧村調査・「旧村シリーズ」展示を実施することができた。				
	成果と課題	文化財関係事業においては、埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行や、発掘調査結果に基づく講演会の開催等、伊丹の歴史・文化を市内外に発信することができた。 博物館事業においては、史料集13の刊行に向け、構成・スケジュール案を作成し、調査体制の確立を図ることができた。伊丹郷町内で旧村調査を行い、「旧村シリーズ」展示（「御願塚」）を実施したが、紀要での報告ができなかった。				
	平成30年度への対策・対応	文化財関係事業においては、出土した遺物を適切に管理できる埋蔵文化財保管庫を整備し、口酒井整理事務所等に保管している遺物の集約の移転準備を行う。 博物館事業においては、史料集13については、2カ年目の予定事業を実施し、3年目（最終年）での刊行につなげる。また、旧村調査・展示については、紀要での報告も含め、すべての事業を実施する。				
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	313101	博物館史料集刊行事業	史料集刊行数(点)	-	-	=
☆☆☆☆	313103	文化財発掘調査事業	本発掘調査実施済率(%)	100	100	=
☆☆☆	313105	旧村史料調査事業＆「旧村シリーズ」展示	調査・報告・展示件数(件)	3	2	=

施策：3132 文化財を活かしたまちづくり

平成29年度
目指すべき姿

取組維持

文化財ボランティアや文化財保護団体を育成、支援し、伊丹の歴史的、文化的遺産を次世代に継承する。郷土の歴史、文化にふれあう機会を充実し、郷土への愛着の心を育む。歴史継承事業を通じて伊丹の歴史、文化財を活用したまちづくりの振興を図る。

施策評価						
☆☆☆☆	施策評価の理由		11月の文化財保護強調月間に合わせて講座やイベント等を多数行うことで、伊丹の歴史・文化を広くPRすることができた。			
	成果と課題		市内文化財保護団体と連携を図りながら文化財保護啓発に係る事業を実施したことにより、計画値を上回る参加があった。			
	平成30年度への対策・対応		平成28年度で終了した「歴史・文化が醸し出す伊丹ロマン事業」を引き継いだ「伊丹市文化財保護啓発事業」として、引き続き文化財保護団体等と協働した事業を推進し、伊丹の歴史・文化のPRに努める。			
事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	313202	文化財保護啓発事業	啓発活動参加者数(人)	3,000	6,679	↑